第 1 学 年 社 会 科 学 習 指 導 案

1 単元 「東アジアのなかのヤマト王権」

2 指導観

○ 小学校での歴史学習では、人物を中心に時代の特色を大まかに理解する学習を行ってきた。中学校の歴史的分野では、時代の特色と大きな歴史の流れを学習内容に位置付け、人物や文化遺産を学習内容習得の手段として学習を展開していく。新学習指導要領では、古代までの学習において、我が国の特色を世界の動きとの関連に着目してとらえさせることがポイントとなっており、とりわけ中国や朝鮮半島など近隣諸国との関係を中心にみていく必要がある。

本単元のねらいは,東アジア情勢をふまえて聖徳太子の政治や大化の改新が大王(天皇)中心の中央集権国家をめざしていたことを理解することである。また本単元は大王中心の中央集権国家確立の契機となる箇所であり、さらに今後唐の律令制度を取り入れた本格的な古代国家成立によって中央集権が定着していく1つのポイントとなる部分である。

- 本学級の生徒は、学習態度が良好で、教師の話に耳を傾け、与えられた課題に対してまじめに取り組む。しかし、徐々にではあるが学級内での生徒の個人差が生じ、授業に集中できずに意欲を失いかけている生徒もでてきている。事前アンケートによれば、社会科において、歴史的分野の方が地理的分野より好きだと答えた生徒が大多数を占めている。学習に対しては意欲的であり、教師の発問に対しては発言する生徒が多い反面、社会的な思考を伴う内容には苦手意識をもつ生徒もみられる。

最後に、授業の終わりには自己評価カードに本時の取り組みを振り返って評価を記入させ、次時の学習へとつなげていきたい。また、本時の学習内容の復習として、歴史ワークの問題をαノートにするように指示をし、基礎・基本の内容の定着化を図りたい。

3 単元目標

	<u> </u>
観点	評
社会的事象への関心・意欲・態度	○巨大古墳の出現に関心をもち、その背景を積極的に調べようとする。○唐について興味をもって調べることができる。
社 会 的 な 思 考 ・ 判 断	○古墳時代に介在した鉄の役割について考えることができる。○聖徳太子の政治や改新政治のねらいを、当時の国内や東アジアの情勢をふまえて考えることができる。○大化の改新後の日本のようすについて、考えることができる。
資料活用の 技能・表現	○資料から古墳が日本のどこに集中しているかをとらえ説明できる。○東アジアの各地域間の関係を説明できる。
社会的事象についての知識・理解	○古墳の技術は渡来人が伝え、被葬者は豪族であることを理解している。○大化の改新によって、天皇(大王)中心の中央集権国家をめざしたことが理解できる。○唐・新羅の来襲に備え、山城や水城を築いたことを理解している。
	○ 朝鮮半島とのつながりがヤマト王権の権力維持に重要だった ことを理解している。

- 単元の指導・評価計画 単元の配当時間:3時間
- 単元の指導・評価計画 ※「指導上の留意点」における①②③:3つの授業改善のポイントに係る手だて ①「教えること」と「学ばせること」を区別した手だて ②学習過程の要所で「考えを書くこと」を大切にした手だて ③学習したことの「まとめ」と「ふり返り」を徹底した手だて ●:家庭学習の課題を生かした手だて

 - ※「評価規準(評価方法)」における観点

関:社会的事象への関心・意欲・態度

思:社会的な思考・判断

	資	:資料活用の技能・表現		知 · 社 会 的 事	象についての知識・理解
次 1	時 1	学習活動・内容 ○古墳の出現について, その背景を考える。 ・古墳の巨大化 ・豪族の存在		留意点 真を提示し, や目的で建造	評価規準(評価方法) 関巨大古墳の出現に関心をもち, その背景を積極的に調べようとする。
		・前方後円墳の出現	① 古墳は渡来人のれ,被葬者(豪力の大きさの象に気付かせる。	族)の富と権	族であることを理解している。
		○ 古墳からの出土する 鉄製品の使いみちを 考える。		らもたらされ	
		○ 朝鮮半島の国々と倭の関係を理解する。	① 朝 解 ド を 己 振 ノ よ と の さ カ り に 指 下 理 評 り ー う に 指 る る る る る ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	強くなったこ。 に本時の授業 入の問題をす	思古墳 時代に介在した 鉄の役割について考 えることができる。
2	1	○聖徳太子の政治に	●家庭学習で聖徳	ナスについて	(プリント分析)
本	1	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	調べたことを で間を で間を が権力る。 での を のし で の の の の の の の の の の の の の	認する。 中でいったこと 改革のねらい	思聖徳太子の政治や改
時			を、東アジア情て理解させる。		当 時 の 国 内 や 東 ア ジ ア の 情 勢 を ふ ま え て
h4		○大化の改新について理解する。 ・蘇我氏の強大化・中央集権国家の確立 ・中大兄王子・中臣鎌	① 中央集権国家をたらにはなければるいはな解れてはないまた。 マ	蘇我氏を排除ないことを	
		足足	が中央集権国家 で中央に正知り で自己版のの の の の の の の の と に の り に に の り に に に り に い こ に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	の成立を阻ん 付かせる。 に本時の授業 入の問題をす	天皇(大王)中心の
3	1	○東アジア諸国の関係 の変化を理解する。 ・唐の成立	るように指示す ①大化の改新後の 勢の変化と日本 させる。	東アジアの情	って調べることができる。
		・白村江の戦い・山城、水城の建築	①日本は中国と対 が敗退し,国内 かったことを確	整備に取りか	考えることができる。
			③ 百済の知識や技城や水城が築か認させる。		とができる。
			③自己評価カード の振り返りを記		(発言チェック) 知唐・新羅の来襲に備 え,山城や水城を築 いたことを理解して いる。 (プリント分析)

5 本時 平成22年9月 日(曜日)第 校時 計画 3時間中の2 第1学年教室にて

(1) 本時の主眼

○聖徳太子の政治や大化の改新政治のねらいを、当時の国内や東アジアの情勢をふま えて考えることができる。 (社会的な思考・判断)

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は、大陸から海を渡って日本に集団で移住した渡来人によって多くの技術がもたらされ、ヤマト王権は朝鮮半島の国々との間に密接な関係があることを学習している。

本時は、聖徳太子が推古天皇の摂政として登場し、天皇(大王)中心の政治、いわわゆる中央集権の実現をめざしていくようすを学習する。豪族の対立や東アジア情勢の変化などのさまざまな困難な状況の中で、どのようにして理想の政治を実現していったかを資料等をもとに考えさせたい。

また、聖徳太子の死後、中大兄皇子や中臣鎌足らによって行われた大化の改新によって本格的な中央集権が確立していったことを資料を使用して生徒の理解を図りたい。最後に、本時のまとめを行い、自己評価を行わせることにより今日学習した内容を確実に整理させるとともに、復習としてワークの問題練習をαノートにさせることで、さらなる知識・理解の着実な定着を図りたい。

(3) 準備

教師・・・教科書,自己評価カード,歴史人物写真,資料プリント,歴史漫画生徒・・・教科書,ノート,ワーク,学習プリント

6 過程

6 適程学習活動・内容1 前時までの復習を行う。	指導上の留意点 ③日本(倭)と朝鮮半島	評価規準(評価方法)	形態	配時
・日本と朝鮮半島の関係の確認2本時のめあてを確認する。	の関係を確認する。 ●聖徳太子の写真をもと に導入を行う。		全体	7
めあて:なぜ聖徳太- うか。	子の政治や大化の改新は天	皇中心の政治をめざした T	のだり	3
3 聖徳太子の政治についてまとめる。	① ② 聖 徳 太 子 の 政 治 に つ い て 知 っ て い る こ と を 出 し 合 う 。		全 体	5
・十七条憲法 ・造隋使(小野妹子) ・仏教の導入 4 資料を読み,遣隋使を	①蘇我氏と物部氏の対立の中で聖徳太子は解さを行ったことを理解させる。	改新政治のねらい を,当時の国内や 東アジアの情勢を	班	1 0
派遣した背景を考える。 5 資料から聖徳太子がめ	②なぜ遣隋使が必要であったかを考えさせる。②聖徳太子が理想とした改改とはどのようなものかを考えを書かせる。	ふまえて考えるこ とができる。 (発言チェック)	全体	1 0
6 大化の改新について理解する。 (中大兄皇子・中臣鎌足)・蘇我氏の強大化・中央集権国家の確立	(中央集権) ① なぜ蘇我氏を排除しなければならないのかを考えさせる。		全体	1 3
7 本 時 の ま と め を し , 自 己 評 価 を す る 。	家庭学習プリントを配布する。③自己評価カードに授業の振り返りを記入させる。		全体	5